

関西電力管内における平成25年度の冬の電力需給実績について

平成26年4月24日
 関西広域連合エネルギー検討会
 電力需給等検討会議

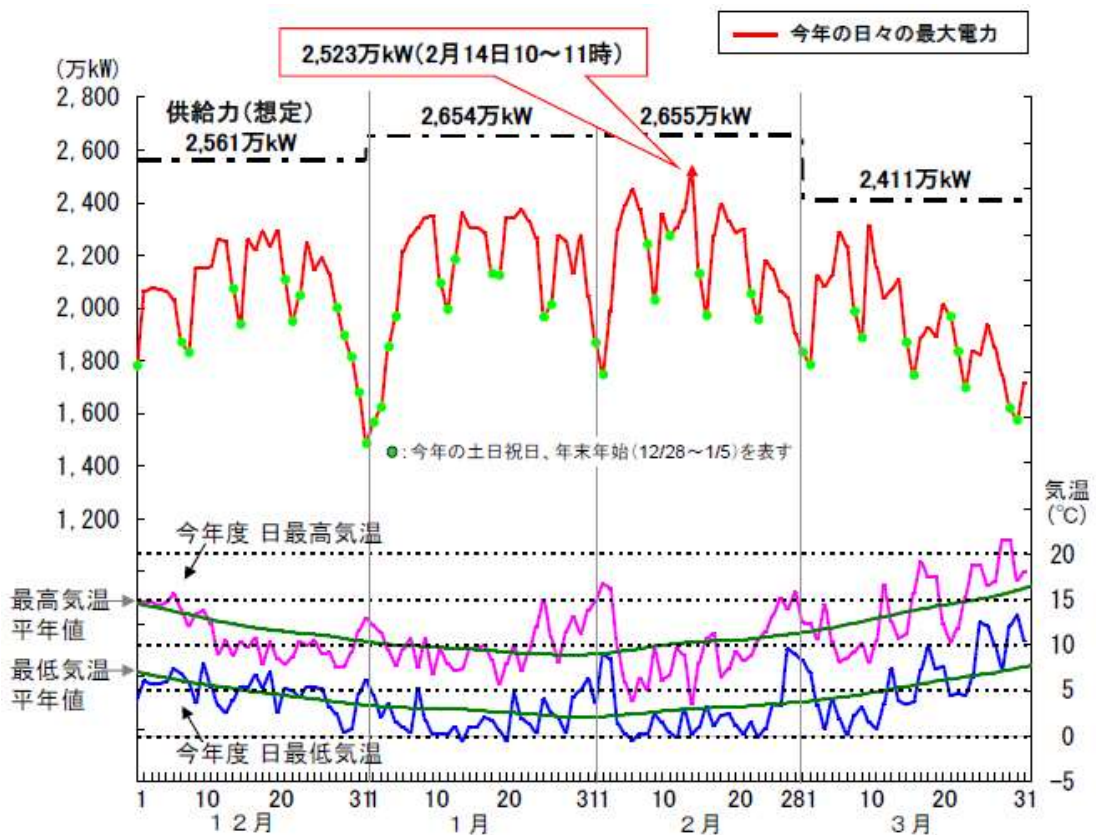
関西電力管内における平成25年度の冬の電力需給については、気温が平年より低かったものの、節電取組の効果がみられたこともあって、最大需要は想定値を下回り、電力ひっ迫には至らなかった。

関西電力に求めた資料等に基づいて取りまとめた今冬の需給実績や、関西広域連合が実施した対策等の状況は、以下のとおりである。

1 電力需給実績

- 今冬は、気温が平年に比べて低めに推移し、特に2月上旬から中旬にかけては、気温が平年値を下回る寒い日が多く、今冬の最大需要日となった2月14日を中心に、電気の使用率が90%以上となる日が続いた。

今冬の電力使用実績と気温の推移



- 今冬の最大需要実績は、最高気温（大阪管区气象台）がこの冬で一番低かった2月14日（金）10時台の2,523万kWで、同日の供給力2,630万kWに対し、電気の使用率は95%となった。

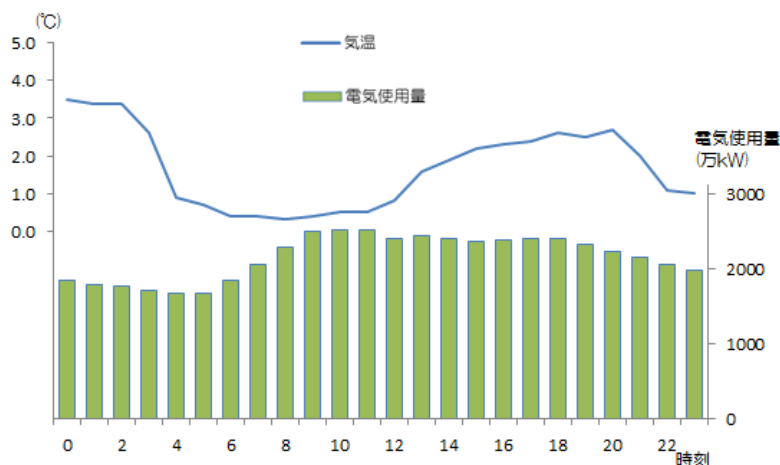
需要は、今冬の電力需給見通しの検証の際に想定した最大需要見込み2,576万kWに近い値であり、供給面では、トラブルに伴う舞鶴発電所1号機出力抑制や他社火力の計画外停止により、計109万kWの供給力低下があった。

同日は、降雪があり、午前中は気温が上がらず0℃台で推移したことから、電力需要は朝から増加し、10時台に2,523万kWに達した。

このため関西電力は、卸電力取引所からの電力の調達等により供給力を40万kW追加し、2,670万kWを確保した。

需要は、午後にはやや下がった後、夜までほぼ横ばいで推移し、需給ひっ迫には至らなかった。

最大需要日（2月14日）の電力使用実績と気温の推移



- なお、中西日本6社でみると、同日の予想最大需要が8,095万kWに対し、供給力は8,782万kW、使用率は92%という状況であった。（電気事業連合会でんき予報）

- トラブルリスクについては、12～2月における関西電力の計画外停止の状況を見ると、計画外停止による供給力低下が最大となった2月12日は147万kW（最大需要2,523万kWの5.8%）、期間の平均では45万kW（同1.8%）であった。

また、中西日本6社では、計画外停止による供給力低下が最大となった日の合計は688万kW（最大需要の合計8,368万kWの8.2%）、期間の平均では200万kW（同2.4%）であった。

全国的にも、計画外停止の件数は、平成22、23年度と比較して平成24、25年度は増加傾向にある。

（平成26年3月31日 総合資源エネルギー調査会基本政策分科会電力需給検証小委員会第4回会合資料4より）

2 電力需給対策の概要

(1) 節電の呼びかけ

- 期間：平成25年12月2日（月）～平成26年3月31日（月）の平日
（年末年始12月30日～1月3日を除く）
- 時間：9：00～21：00
- 内容：昨年同様の着実な節電の実施
《昨年と同様に平成22年度冬と比べて6%削減を目安》

<主な取組>

| 取組の種類 | 内容 |
|----------------|--|
| 呼びかけ | <p>〔全般〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 節電の目安や具体的な取組方法、取組効果などを、分かりやすく繰り返し周知 ・ 構成府県市の広報誌、HP、テレビ・ラジオ、ポスター、チラシ、街頭広告施設の活用 <p>〔家庭〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街頭での呼びかけ、チラシ・グッズの配布、セミナー・フォーラム・パネル展の開催 <p>〔事業者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者や関係団体への節電協力要請やチラシの配布、セミナーや説明会の開催、節電・省エネ診断や訪問指導等の実施、設備導入補助の実施 |
| 率先取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 節電目標設定、暖房温度 19℃以下の徹底、昼休み消灯、室内・廊下等の照明間引き、パソコン省電力設定 ・ ノー残業デー、定時退庁 ・ BEMS、デマンド監視によるエネルギー管理 ・ 照明・信号機等のLED化 |
| 電力需給ひっ迫を想定した対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 万一来た、関係機関への連絡方法や府県市民への周知方法、節電要請内容等の確立 |

(2) 関西電力への働きかけ

- 火力発電機の巡回点検の強化など、発電施設のトラブルリスクの低減に万全を期すこと
- 電力需給に関する情報提供など、最大需要の抑制につながる取組を推進すること
- 需給が厳しくなると想定される場合には、他電力会社からの追加融通など、安定した供給力の確保に万全を期す一方、かかる調整コスト等を安易に利用者に転嫁しないよう最大限の努力を行うこと



〔発電施設のトラブルリスクの低減に関する関西電力の取組〕

- 施設・機器の点検を可能な限り秋期に実施
- 巡回や監視の強化による異常兆候の早期発見
- トラブルの可能性のある資材や補修用部品の事前確保
- 関連会社との協力による緊急時の補修作業体制の確立

〔最大需要の抑制につながる関西電力の取組〕

- 電力需給について、翌日の想定や前日の実績をホームページで公表
- ホームページや検針票の活用、訪問などによる節電・省エネのお願い
- 電気の見える化サービス（はぴeみる電）の加入拡大の取組

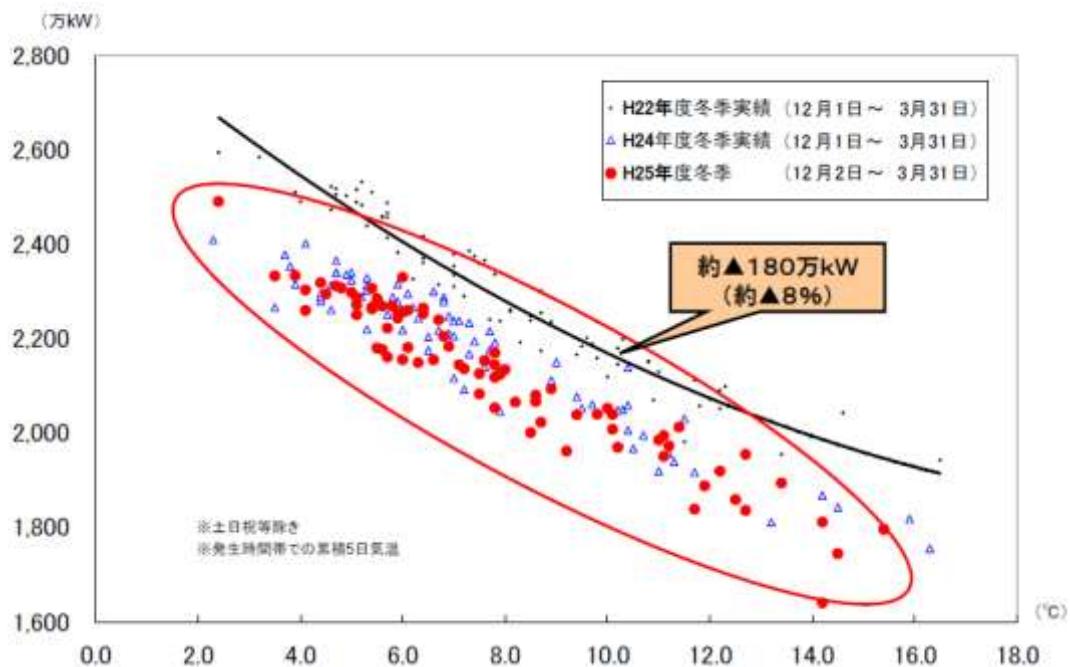
〔需給が厳しくなると想定される場合の関西電力の取組〕

- 需給ひっ迫お知らせメールの登録のお願い
- 緊急時の通告ネガワット特約の締結
- BEMSアグリゲータとの協業による需要抑制の取組

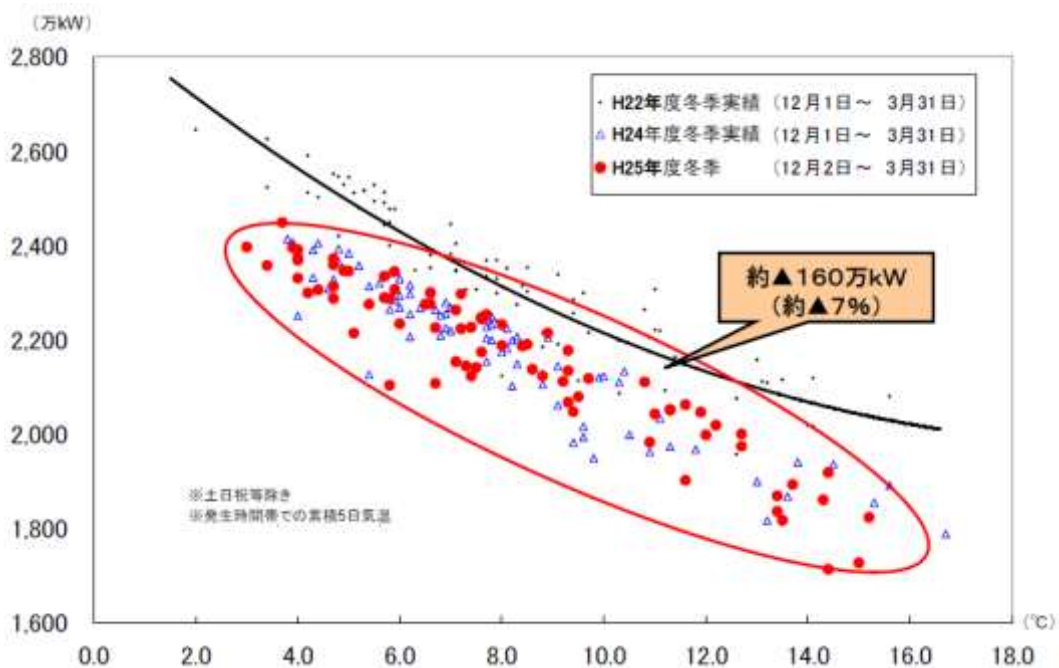
3 節電量について

- 今冬の節電要請期間中の平均節電量は、9時台で約8%（約180万kW）、18時台で約7%（約160万kW）減少しており、目安の6%は達成されたことが確認された。

9時台の節電量



18時台の節電量



- 関西電力がサンプルデータをもとに推計した分野別の平成22年度冬からの減少率は次のとおり。

9時台

| | | |
|-----|---------|------|
| 産業用 | 約▲85万kW | 約▲9% |
| 業務用 | 約▲60万kW | 約▲7% |
| 家庭用 | 約▲35万kW | 約▲6% |

18時台

| | | |
|-----|---------|------|
| 産業用 | 約▲45万kW | 約▲6% |
| 業務用 | 約▲65万kW | 約▲8% |
| 家庭用 | 約▲50万kW | 約▲6% |